



JALグループ 新制服デザイン決定

～2020年4月から着用を開始します～

2019年7月23日

第19046号

JALは、2020年4月より航空運送事業に関わる全部門の制服について新たなデザインに変更することを発表しておりますが(*1)、この度、新制服デザインを決定しました。

なお、客室乗務員の制服については皆さまから頂戴した貴重なご意見(*2)も踏まえた作り込みを経て、最終決定しています。

JALグループスタッフが誇りを持って新制服を着用し、心を一つに、常に新鮮で感動いただける価値を創造し、最高のサービスを提供することで「世界で一番お客さまに選ばれ、愛される航空会社」を目指してまいります。

(*1)2018年8月23日付プレスリリース第18062号「『一緒に創るプロジェクト』2020年4月から制服デザインを一新します」参照
URL: <http://press.jal.co.jp/ja/release/201808/004848.html>

(*2)2019年1月22日付プレスリリース第18129号「『みんなのJAL2020新制服プロジェクト ～アンケート編～』を実施」参照
URL: <http://press.jal.co.jp/ja/release/201901/005019.html>

1. 基本コンセプト

- 洗練されたスタイリッシュなデザインに、安全・安心に最高のサービスを提供するプロフェッショナルが着用する制服として、各方面からも高い評価をいただいている現行制服における優れた点を生かしながら、必要な品質・機能を兼ね備えたものとします。
- SDGsが目指す社会の実現に貢献すべく、お取引先さまと一緒に東京2020大会において示されている「持続可能性に配慮した調達コード」への対応に取り組みます。また、耐久性向上や再生ポリエステル使用などによる環境への取り組みを行うとともに、多様性に配慮したラインアップによりスタッフが生き生きと活躍できるものとします。



関連するSDGs

2. 選定経緯

今回の新制服は、実際に制服を着用しているJALグループスタッフで構成されるプロジェクトチームを中心に、基本コンセプトとコストを総合的に判断し選定しました。

客室乗務員の制服については、候補案に対して皆さまから数多くの貴重なご意見を頂戴しました。最終決定した候補に対しては、「スタイリッシュに感じる」「新しい感じがする」といった多数のご意見をいただきました。また、「袖の形状が業務に適するのかわ」「女性用にパンツスタイルを導入すべきではないか」など、実際に改善につなげた提案も多くいただきました。

頂戴したご意見とJALグループスタッフの声を反映すべく試行錯誤を重ね、皆さまと一緒に、基本コンセプトを実現する新制服を実現しました。

3. 新制服のポイント

【客室乗務員】

デザインをご担当いただいたクリエイティブディレクター江角 泰俊(えずみ やすとし)氏により”Hybrid Modern Beauty”をテーマに、「洗練されたハイブリッドビューティ」「ハイブリッドが生み出す、現代的な美しさ」を表現しています。

異なる素材を組み合わせたハイブリッドという最新のデザイン手法を用い、ロゴマークの「鶴丸」とブランドカラーで視認性の高い色を一部アイテムに活かしながら、オリジナリティがあり洗練されて着心地が良く高い動作性を実現した制服となりました。

鶴の流線型をあらゆる立体的なシルエットのワンピースは、航空会社の制服では極めて珍しいバルーンスリーブを採用。採用にあたっては、皆さまからいただいた多くのご意見を踏まえ、袖形状を業務に最適化したボリューム・動きに設計しています。

スカーフは、大判化した上、曲線と直線を融合させたデザインで、JALの翼で交流を促進していくという意味合いを含めるとともに、テーマの“Hybrid”を視覚化するものとなっています。スカーフは、JALグループ各航空会社別に設定しています。また、スカーフと同じストライプをあしらったエプロンを新たに導入。華やかにお食事のシーンを彩ります。

また、多様な働き方を実現するため導入するパンツスタイルは、ワンピースと並んだ際に同じ印象となるバランスで実現します。



(JALグループ航空会社 各社スカーフ)



【地上接客部門】

客室乗務員と共通の”Hybrid Modern Beauty”のテーマのもと、江角 泰俊氏によるデザインです。

鶴をイメージした曲線的フォルムによりエレガントさを表現しつつ、さまざまな動きでも美しい所作を維持できるようパターンメイキングを工夫しています。なお、客室乗務員の制服と同様にロゴマークの「鶴丸」とブランドカラーを活かしています。

スカーフは、大判を整形したロングタイプ。江角氏の手書きによる花を満開にあしらい、約20色の色づかいで空港をはじめとするシーンで華を添えます。

また、新たに導入するワンピーススタイルは、構築的で現代的な美しいシルエットでありながら、動きやすさを追求しています。

ラウンジスタッフの制服は、やわらかなピンクベージュにノーカラーのダブルのジャケットで、ラウンジにふさわしい雰囲気演出します。

接客スタッフの制服は、特別感を醸し出すクリームベージュに、テーラードカラーのダブルのジャケットで、上質なフォーマル性を演出します。



【運航乗務員】

男女共用デザインは、従来と同様のJALグループ伝統のデザインとしつつも、動きやすさを重視したパターンの変更などにより、機能向上を果たしました。

また、新たに導入する女性用デザインは、ジャケットをすっきりとしたシングルボタンとし、従来のネクタイに代わってスカーフを導入します。折り鶴の展開図をモチーフとしたスカーフ図柄は、客室乗務員・地上接客部門同様に江角 泰俊氏によるデザインです。



【整備士】

カバーオールは、デサントジャパン社によりデザイン。ロゴの鶴丸をイメージした大胆な切り替えのデザインに、スポーツウェアで培われた機能性を生かし立体的かつスタイリッシュなシルエットを実現し、美しく機能的な「パフォーマンスギア」となります。

雨衣や防寒衣などのアウター類は、モンベル社によるものです。登山・アウトドア同様に、豪雨・吹雪などの厳しい気象条件から身を守る優れた機能性と高い耐久性を実現しつつ、無駄を省き、使いやすさを突き詰めることで生まれる機能美を備えています。カラーは、墨色とし、鋭い洞察力、安心・安全への決意を表現しています。



【グラウンドハンドリングスタッフ】

作業衣は、デサントジャパン社によるデザインで、整備士と共通したデザイン・品質・機能とし、カバーオールに加えて、多様な働き方に対応できるセパレートタイプの作業衣を新たに設定。加えて、酷暑への対応としてポロシャツを導入します。

アウター類は、整備士同様のモンベル社によるものです。カラーは、エネルギッシュな赤色です。



【かりゆしウェア】

沖縄地区において夏季に着用するかりゆしウェアは、江角 泰俊氏にデザイン監修いただき、デイゴをはじめとする5つの沖縄の花を鮮やかな色彩で配置しています。沖縄らしい明るさや温かみのある「おもてなし」の想いを表現していることに加え、「現代的な新しさ」を感じていただけるデザインとなっています。今回より新たに運航乗務員にもかりゆしウェアを導入。前立てにさりげなく同じ図柄を使用しており、客室乗務員、地上接客スタッフとの統一感を演出しています。

全てのかりゆしウェアは、沖縄県内での生産を行っています。



(参考)クリエイティブディレクター/デザイナー 江角 泰俊氏 略歴

江角 泰俊 (Yasutoshi Ezumi)

1981年 広島生まれ。「EZUMi(エズミ)」デザイナー。
ロンドン、セントラルセントマーティンズ美術学校卒業。コレクション
ブランドで経験を積む。
2010年 自身のファッションブランド「Yasutoshi Ezumi」を立ち上げ、
JFW主催「第3回SHINMAI Creator's project」に選出される。
2011年秋冬コレクションより、東京コレクションにて発表。
第10回ベストデビュタント賞ファッション部門受賞、第6回DHLデザ
イナーアワード受賞。
2018年ブランド名を「EZUMi」に変更。



以上